



夢さと

令和8年4月9日(木)
三豊市立豊中小学校
No. 1
発行者：中田 祐二

子どもは、まっさらで生まれてくるわけではありません。お父さんとお母さん、さらにさかのぼると、おじいちゃん、おばあちゃんから脈々と命を受け継いで、この世に生を受けます。

豊中小学校も同じです。桑山小学校、比地大小学校、笠田小学校、上高野小学校、桑山小学校からの伝統を受け継ぎ、生まれた学校です。

校訓

故きを温ね、新しきを知り、夢をえがく

そして、子どもが生まれると、どんな子に育ててほしいか、どんな人になってほしいか、願いを込めて名前を付けます。家族は何度もその名前を呼び、子は何度もその名前を呼ばれながら、子どもたちは成長していきます。

4月に生まれたばかりの豊中小学校にも地域の方々の願いがこもっています。その願いを表したのが「校訓」です。6日の始業式には、その校訓の話をしました。

豊中小学校の校訓は「故きを温ね、新しきを知り、夢をえがく」です。

この「夢」には二つあります。

一つは布団の中で見る夢。この夢には、昔の大切な思い出が詰められています。

もう一つは「こんなふうになりたい」と、自分の未来を思いえがく夢です。

ですから校訓には、「夢をえがく」に二つの言葉を付け加えました。

「故きを温ね」——これは桑山、比地大、笠田、上高野、本山、それぞれの人たちが大切にしてきた昔を、ふるさとへの思いを大切にすることです。そして、みなさんが歩んできた道も大切にすることです。これまでみなさんが経験してきたことの中で、無駄なことなど何一つありません。

「新しきを知り」——世界には、みんなのまだ知らないときどきするようなこと、わくわくさせるような何かがたくさんあります。一生かかっても学び尽くせないほどのときどきわくわくをたくさん知りましょう。そして、自分が生涯打ち込める何かを見つけていきましょう。

「故きを温ね、新しきを知り、夢をえがく」

今、この一瞬を大切にすること。今の1秒が積み重なって、1分になり、1時間になり、1日になり、1か月になり、1年になります。いい1秒の連続がいい1年を創ります。

今日始まるこの1年が、未来の夢につながる、いい1年になりますように。そして、将来、暖かいふとんにくるまったときに、いい思い出として夢に現れる1年になりますように。そんな願いを込めて、始業式の式辞といたします。

先人に憧れ(温故)、今を大切にしながら(知新)、明日の自分に期待を抱く子どもに育ててほしい。それが、豊中小学校と子どもたちに抱く願いです。

子どもも学校も、過去を受け継ぎ、未来に向かって成長していきます。両者はよく似ています。そして、切り離せないものです。子どものいない学校はよそよそしく、おすまし顔でした。でも、7日に子どもたちが登校してきた学校は、ようやく「学校」の顔になりました。

子どもたちの声が、豊中小学校の産声に聞こえます。子どもたちの足音が、学校の鼓動に聞こえます。学校に子どもたちが入り、豊中小学校が歩み始めます。

